

自遊塾倶楽部広報紙 井戸端通信

Vol.48 発行
平成31年2月21日

〒930-0096
富山県富山市舟橋北町7-1
富山県民生涯学習カレッジ

「自遊塾」の現在・過去・未来

自遊塾塾長 澤田 隆彰



自遊塾は、平成七年県民カレッジ事業として十六講座から出発し、今年度（平成三十年度）には一一三講座開講するまで大きく成長しました。

特に、県民ボランティア講師が教える自遊塾という方式は全国初であり、その後、各地の自治体で類似講座が増加していることから分かる通り、自遊塾は先進事例であり、「富山県の宝」です。

とはいえ、今日までの道のりは決して平坦でなく、平成十八年には「県民カレッジあり方検討会」の議論の中で、自遊塾存続の危機が訪れたこともありました。

また、発足当初の「対象は六十歳未満の現役社会人、講座は平日の夜または週末に開講」し事務局が運営する方式から、自主運営を強く意識した方式への変更など、時代とともに進化し現在に続いています。

そして、自遊塾の今後を考える時、常に「自遊塾はどうあるべきか」「自遊塾の存在意義」を問い続けなければならないと思っています。

その一方、県民教授（ボランティア講師）が企画・立案し、受講生（塾生）とともに自主運営している自遊塾の活動を、より多くの県民の皆様知ってもらう努力も必要と考えます。三年前から井戸端通信の「Web版」を開設しましたが、残念ながらまだ活用は浸透していません。工夫・改善を加えながら、各講座が少なくとも年一回は掲載されることを期待しています。

最後に、個人的見解ですが、県民教授として講座を開講するというのは、自身が人生を歩むなかで学んできたことを社会還元する場と思っています。

生涯学習ということからも、一人でも多くの方が県民教授になられ、あるいは受講生となられ、「出会う喜び・ともに学ぶ楽しみ」を自遊塾で体験されることを期待しています。

NEWS

県民カレッジ三十周年



自遊塾を主催する富山県民生涯学習カレッジが開学三十周年を迎え、平成三十年十月六日、富山県教育文化会館において「三十周年記念式典・記念講演」が催されました。

富山県の生涯学習は、昭和四十九年県民大学校事業の実施、昭和五十六年生涯学習センター設置を経て、昭和六十三年十月全国に先駆けての県民カレッジが開学しました。

県民カレッジは、県民大学の事業を継承・発展させながら、とやま学遊ネットの運用、テレビ放送講座開設、自遊塾開設など数々の先導的な事業に取り組み、全国的な注目を集め高く評価されています。

県民カレッジが主催する講座は、自遊塾（平成三十年度一一三講座）、定時制高校の授業の一部とともに学ぶ共学講座（二二七講座）はじめ、夏季講座、ふるさと探究講座、地域課題学び活かし講座、映像制作講座、学習団体講座があります。

また、県内の市町村などの公的機関や大学・短大、文学館などが実施するものと広報や単位を共通とする連携講座も実施されています。

そして現在、県民カレッジの講座取得単位等を記録する県民カレッジカードの所有者は五五〇〇〇名を越えるまでになっています。



参考 〈県民カレッジ30周年のあゆみ〉



笑顔感謝法とボディーランゲージ体操



絵本 de セラピー



中国三昧



富山の魅力



名山を楽しむ



天災を知る



越中国の埋もれた歴史



バルーンで人気者

講座からの一コマ

塾生の声

自遊塾とわたし

塾生 大菅 眞理子

「何か始めたい」そう思った時に自遊塾に出会った。たくさんの方の講座の中から仕事に役立つこと、楽しんで続けられることなど、色々考えて選んだ内の一つが「自然美の転写アート」である。



ワクワクしながら受講すること十八年。毎回違った手法で、その時間内で作品が仕上がりに、同じ材料を使ってもそれぞれ個性的な作品が出来上がる。とても魅力的な講座である。幸い富山市に勤めていたこともあり、仕事の合間のちょっとした息抜きにもなった。メンバーも出たり入ったりと変化はしているものの、受講後のお食事会、仲間とのたわいもない会話は私のパワーの源となった。健康でまわりの理解のもと、好きなことを続けられることに感謝する。

退職した今、人と触れ合い、社会とつながりを持つことの大切さをひしひしと感じる。平均寿命が

どんどん伸び、今や人生百年時代。さて、あなたはどうか生きますか……。

元氣アップ笑いヨガ

塾生 石崎 アサミ

「笑いヨガ」の開講を知り、飛びつきました。

例えば、明治生まれの母の口癖は「笑つ門には福来たる」でした。後期高齢者となった私も同じことを言っています。



ところで「笑いヨガ」とは、その名の通り、笑つという体操とヨガの呼吸法を組み合わせたもの。ただただ無邪気に笑いを楽しむ。一人でできなくても、仲間の力は大きい。笑いは感染し、増幅するもの。笑いの大きな渦が起きるのです。笑ったあとは、スッキリ。元気になるのです。私は勢いに乗って、十二月にはリーダー養成を終了。二月にはインドへ飛んでティーチャー養成講座を体験することになっています。

ちなみに、この「笑いヨガ」は二十三年前にインドの内科医マダン・カタリア博士が考案、創始し、現在一〇か国もの国々で実践されている

とか。二月の講座は博士直伝。世界各国から大勢集まり、一緒に笑い体操をするのです。興味津々。好奇心が否応なく湧いてきます。

「百聞は一見に如かず、行かずばなるまい」喜寿ながら青春してまーす。♪ワハハ♪そして♪ケ・セラ・セラ♪

超高齢社会

「長生きなにごめでたい」

塾生 寄田 純三

私は現在後期高齢期にあり、妻も同年齢で三年程前から認知症を患っています。一日中床に就いていて会話が出来ない妻を支援介護する生活で、空しさや疲労が溜ります。まさに「長生きなにごめでたい」の心境で当講座を受講しました。

最新の医学的理論を基礎に多くの具体例を挙げて、高齢者に心と身体バランスのとれた健康な生き方を提示して頂きました。特に講師が実践を踏まえて説く事柄、例えば、健康寿命、薬食同源、土産土法、病気予防等については説得力があり、認識を新たにしました。

今後は、教示頂いたことを自分なりに咀嚼して、出来ることから実生活に活かしたい、そして病める老婆と共に人生の最終章を心身穏やかに全うしたいと考えています。

講師はじめ関係者の方々に感謝します。有難うございました。

中国二味ー漢方でストレスフリー

塾生 栗島 喜美子

皆様は漢方と聞いて、何を連想されるでしょうか？「ツムラ」を連想しているのは、私だけでしょうか？（笑）

今回、私が受講した講座は、上海生まれ富山在住の青海燕燕先生の講座でした。漢方は、中医学を基に、日本独自の文化になりました。先生は、中医学に基づき、漢方の考え方である、全身のバランスを整えて治療し含まれている生薬の相乗効果によっていくつもの症状を緩和することができ、中国茶を教えてくださいました。季節の身体に合わせたお茶を、実際に中国の茶道で飲ませていただきました。とても飲みやすく、美味しくて、おかわりをしました。

生徒さん方は、老若男女でしたが先生のコミュニケーション力のおかげで、授業の合間に中国語も交えながら皆さん仲良く楽しく学ぶことができました。

前期の方々も、講座以外の課外授業（金岡邸）や薬膳交流会もされているように、私も次回参加させていただきます。

講座と先生のご配慮のおかげで、富山に居ながら本場の料理を味わうことができ、交流の輪が広がりました。これは、この講座の醍醐味です。

あなたも参加されると、私たちOBに会えるかも（笑）



新講座紹介

●本部新講座

「誰でも役者になれる」

〈講座名〉老若男女問わず！
ゆるゆる演劇ワークショップ

県民教授 稲林 麻理佳

「演劇」と聞くとどんなイメージを持たれますか？ 壮大なストーリー、自信に満ちた人たちの勇ましく演じる姿、なんてものは一つのジャンルに過ぎないと私は思います。普段何気なく過ごしていると見落としがちなことが、ワクワクする物語の序章だったりするものです。

私は演劇について学校で学んできたわけではありません。自分が触れて感じて培ってきたもので演劇を作っています。そんな中で、人の個性が演劇を作るといふところにたどり着きました。誰でも役者になれるし芝居は作れます。それは自分の個性があれば成り立つのです。

この講座ではあくまでも「緩く楽しむ」をテーマにしています。また、少なからず、まだ見ぬ自分と遭遇で



(写真：野外で行った民話演劇)

きるのではないかと考えております。

隠された古代史の謎

日本建国の歴史を

「神社伝承学」から

追ってみよう

県民教授 大島 久和

日本という国は、どのように誕生したのでしょうか。この講座は、数多くの由緒ある神社の祭神や縁起・伝承を調査・推考する「神社伝承学」という手法によって、日本建国の謎に迫ってみようというものです。

富山市を代表する日枝神社は「山王さん」の愛称で親しまれ「山王まつり」は県内最大のお祭りです。では、その「山王」とは一体誰なのでしょう。さらに、京都市を代表する八坂神社は、「天王」または「午頭天王」の愛称で親しまれている祭神とその一族が祀られ、「祇園祭」は日本三大祭の一つとして有名です。実はこの「天王」と「山王」は同じ一族で、さらに日本建国の歴史に大きくかわっているとしたら、興味を持たれる方も多いのではないのでしょうか。

この講座に少しでも関心をもたれた方に参加して頂き、一人でも多く古代史ファンになって頂けるように、わか

りやすい講座に心がけていきたいと思っています。

●富山地区センター新講座

笑って元気に

笑って幸せ

歌っていきいきと

県民教授 小林 和子

皆さんは「笑いヨガ」を体験された事がありますか？ 最近は、テレビや雑誌などで取り上げられる事が増えてきました。今では介護施設や地域のサークル、学校などでも沢山の方が体験されています。

では、「笑いヨガ」とは何でしょうか？ 年齢や性別、運動能力にも関係なく誰でも参加できるエクササイズです。笑いとヨガの呼吸法を組み合わせたエクササイズです。最初は体操として「ハハハ」と声に出して笑い、それがそのうちに本物の笑いになります。両方とも効果は一緒です。笑うとストレスの解消になります。笑うと免疫機能が活性化します。笑うと心も身体も元気になる前向きな気分になります。

「楽しいから笑うのではなく、笑うから楽しい」のです。私は困った時や辛い時、頑張りたい時に「ハハハ」と

笑い、「今日も絶好調、人生最高ハハハ」と笑っています。

皆様、一緒に笑って楽しく過ごしませんか。沢山の出会いと笑いを楽しみにしています。また、「歌体操」による手足の運動や心身のリフレッシュも予定しています。

●その他・全域新講座

川柳はじめのはじめ

県民教授 すずき 善作

タイトルが示すとおり、この講座は皆さんの川柳創作の始まりの第一歩をお手伝いします。

私たちが日ごろ使っている日本語を五七五の十七音のリズムに乗せて一句に仕上げる、単純ですが奥深いのが川柳という文芸です。俳句とは異なり季語の制約はなく、人間の喜怒哀楽を詠みます。要素は、次の三つ。

「穿（うが）ち

「おかしみ」

「軽（かる）み」

これが詠みこまれていれば、それで完成です。

講座では、なるべく実践に時間をさき、作品の互選と合評をおこなって進めます。



講座紹介

●本部(教育文化会館)開催講座

温暖化を防ぐ

〈第五次 IPCC レポート解説〉

県民教授 湊 輝男



地球温暖化防止に関して、児童の総合学習から自遊塾受講生へ活動の場を広げて、「Cool choice」の普及啓発を兼ねた講座を開催しました。

今回は、地球温暖化コミュニケーションの資料・ビデオを駆使して映像を存分に採用し、ICTを工夫することで気候変動の実情を理解し学んでもらうことに努力しました。時には、地球環境問題(海洋汚染プラスチック)の話題に波及することもあり、有意義な授業になりました。

将来、世界の潮流になっている※

シカル消費の裾野が広がるように、行動していきたいと思っています。原料の調達および製造プロセスで環境負荷に配慮した商品を購入することです。

※エシカル消費：人々にとって公平な倫理的消費

快眠レクチャー

〈快眠レクチャー&快眠体操〉

県民教授 藤井 秀明

昨今、「睡眠負債」という言葉が広く知られる状況の中、睡眠の正しい知識を理解していただくことを願って、「快眠レクチャー&快眠体操」の講座を開設し、塾生を募集しました。

慣れないところ、塾生の皆様のご理解とご協力には、心から感謝しています。また、前向きな塾生の皆様の姿勢に刺激を受けました。

「睡眠の役割」「睡眠のメカニズム・リズム」「眠れるカラダのつくり方」を学んでいただき、それらを塾生が一人でも多くの人に伝えていただきたいの思いで講義をさせていただきました。「快眠体操を行い効果を実感することができた」との意見や「講座で学んだことを取り入れて快眠できるように

なった」との報告を聞き、講座が開講できたことに感謝する思いであります。

●富山地区センター開催講座

講座を育む歓び

〈全身で笑って、

ゆるゆる呼吸で細胞五歳若返り〉

県民教授 清水 暢

私の講座の特長は、共育という考えを大切にすることです。

自然界の生命にとって成長に必要な条件に太陽、大地、水があります。講座開催日はほぼ晴天となり、太陽の光に恵まれました。講座場所は雄峰高校の教室で清潔感があり、良い場所に恵まれました。

講座に参加される受講生の皆さんは、私の先生となって教えて下さり、人という良い水に恵まれました。

恵まれた環境の中で、受講生の皆さんと共に成長し、共に講座を育んでいくことが大きな歓びでした。

最後に、お世話になりました受講生の皆様、自遊塾の皆様、雄峰高校職員の皆様に感謝申し上げます。

●高岡地区センター開催講座

初講座の苦悩

〈私的学問のすすめ〉

県民教授 浦林 寛英

友人の紹介で初めて自遊塾に講座を

もった。受講者三名。内容はかなり難しかったというのが受講生の反応だった。私がこれまで実践してきたことの組み合わせで、各テーマだけで十分に講座できる。①「自費出版のススめ」は他者に読んでもらえるだけの豊富な実践の質と量が必要だ。②「カウセリングのススめ」は来談者との応答態度の実践研修。③「ギフトッド教育」は大学院の研究レベル。④「温故知新ー仏教に学ぶ」人生を仏教に照らして歩もつとする人が対象。ましてや⑤「退職後の大学院進学」はあっても海外留学を志す方は稀に達しない。どれかに関心があっても、幾つものわけにはいかないだろう。では、次年度受講しやすくするために、どのテーマに絞り、その各回をどう進めていくか、講座開設前に相談できる場が私には必要である。



第三十回 県民カレッジ学遊祭から

学遊祭特別講座

「富山の名水探訪」

県民教授 岡岸 喜義

昭和六十三年十月一日に誕生した富山県民カレッジは、三十周年を迎えました。十月六日の記念式典で私の自遊塾から誕生した「NPO法人富山の名水を守る会」が富山県生涯学習団体協議会会長賞を頂きました。

翌七日の学遊祭では数ある講座の中から特別講座の依頼があり、ありがたくお受けいたしました。講座では、県内の名水の状況を、水のおいしさの条件と名水の特性およびその場所をお話しました。展示発表では、そのことが一目でわかるような展示としました。

自遊塾「富山の名水探訪」は、平成十年に開講してお陰様で二十一年となりました。その一年毎の修了者を縦の線で結んで平成十七年に「NPO法人富山の名水を守る会」を立ち上げました。年二回の会報も25号となりました。創刊号には、中川松枝学長の激励とお祝いの言葉を掲載させていただきました。奇しくも瑞宝双光章を受賞された新聞記事を拝見し、当時立ち上げにお世話になった島谷徹先生を懐かしく思い出しました。

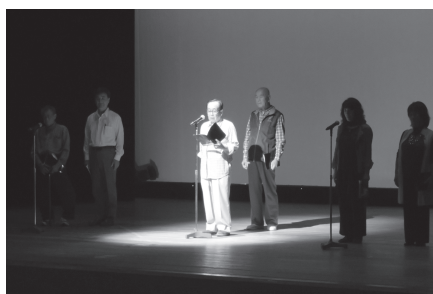
一年一年の積み重ねが記録となり、名水の展示発表やお話ができるのかなとしみじみ思います。

継続は力なりと自分自身実感しています。

これからも、仲間のみなさんとホームページで富山の名水のおいしさを全国に発信するとともに、安心安全な水の保全に努めたいと思っています。



さわやかな空の下で歌いましょう



マイ・ポエム綴る&詠む



高瀬湧水の庭



郷土芸能「南京玉すだれ」の習得



富山弦楽アンサンブル

平成三十年十月七日開催の学遊祭では、上記岡岸塾長のほか次の特別講座が開講されました。

アッと驚くダマシの手口！

消費者トラブルに遭わない為に！

県民カレッジ自遊塾 県民教授 串田 和博氏

話題のAI（人工知能）とIoT

～生活や仕事への関わりの今～

県民カレッジ自遊塾 県民教授 柵 富雄氏

明治150年「立山砂防の歴史と世界遺産への取り組み」

富山県総合政策局参事・課長 松島 吉信氏

明治150年「明治期の社会格差を告発した横山源之助」

富山近代史研究会 会長 竹島 慎二氏

謙信越中襲来！

富山市郷土博物館主任学芸員 萩原 大輔氏



交流・研修部会の活動について

交流・研修部会 部長 柵 富雄

今年度は部会として四つの活動目標を掲げました。(1)地区ごとに交流会を企画し県民教授がいずれにも自由に参加(2)他の講座への受講や見学などの機会をすすめ交流と学びに役立てる (3)県民教授の交流機会として学遊祭に積極的に参加する (4)学遊祭の展示ブースでそれぞれの講座の資料を通じた交流と学びをすすめる というものです。

地区ごとの交流会は七月に砺波地区、十月に高岡地区で開催し、地区を越えた参加とそれぞれの活動の紹介や体験学習をしました。私も参加して感動したことがあります。それは、肩書きを外し自らの経験を生かして自遊塾を始めようとした思い、塾生から励まされたこと、続けてきた講座のリフレッシュへの課題など、普段は触れることのない県民教授の素敵なモチベーションに接したことです。これは参加してみないとわかりません。

学遊祭では、講座資料の展示は多くありませんでしたが、展示されている資料を、県民教授や一般来場者が興味深く見る様子が見られました。ステージ発表の前の少し緊張された、しかし生き生きとした表情は印象に残りました。

このようにわずかの機会にも感動があり、発見がありました。また、今年度の県民教授会発足の際に、初めての県民教授から先輩に学びたいという声が挙げられていました。これから講座の開催や運営を学ぼうとする若い県民教授には、これらの交流の場は貴重な機会になり、自遊塾の若返りに結びつくと思います。経験豊かな県民教授も、講座のリフレッシュや新たな企画に結びつくかもしれません。

県民教授の皆さんは、多忙な方が多いと思われます。また、ご自身の講座運営に注力されほかの講座や県民教授の方に

接する余裕がない方もいらっしゃるかと思います。私もそのような時があります。

そのような中で、無理なく自発的な形で交流や研修の機会が生まれることが何よりと考えていますが、「参加して分かる交流・研修」を目指して、皆さんとできることを考えていきたいと思っています。

出前・庶務部会の課題

出前・庶務部会 部長 平田 清志

これまで人生八十年と言われてきた。最近では「人生一〇〇年の時代」を迎えると言われるようになった。そこで重要なのは平均寿命でなく健康寿命である。健康寿命とは平均寿命との差で「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」とWHO(世界保健機関)で定義されている。富山県は数年前から健康寿命を伸ばすため「健康寿命日本一」を目指す県民運動を推進している。その県民運動の成果があり、富山県の健康寿命は二〇一六年(平成二十八年)時点で女性七五・七七歳で全国四位、男性七二・五八歳で全国八位と、かなり躍進した。

平成七年に開設した自遊塾は今年で二十五周年を迎える。その間の活動は、県民の健康で豊かな人生を送る人の知的好奇心と健康づくりに応え、富山県の宝・財産として高く評価され蓄積されてきた。県民の健康寿命を延ばすことにも大きく貢献していると言える。

自遊塾の一部会としての出前・庶務部会が求められているものは何か、また部会の実施可能な施策は何かについて部員間で数回討論した。以下のような発言があった。

- (1) 出前可能な講座が一目でわかるパンフレット(一覧表)を作成する。
- (2) 出前講座の存在をPRする方法を工夫する。
- (3) 出前講座の受付から実施までの道筋を明確にし、経費(交通費、材料代、謝金など)の手当てについても検討する。これらについて、今後さらに議論を深めたい。

広報部会の活動について

広報部会 部長 森川 敬三

広報部会の今年度の重点として、(1)「井戸端通信Web

版」の充実 (2)広報紙「井戸端通信」の効率的な編集・発行 (3)塾生募集要項の配布先開拓 を掲げて活動しました。

(1) 「井戸端通信Web版」の充実について

Web版を充実させるために、県民教授の皆さんを対象にアンケート調査を実施しました。その結果、次のようなことが分かりました。

- ① 掲載講座、掲載頻度が多くないこと。その理由は県民教授の中にはパソコンを使用していらない方、パソコンに不慣れな方がいらっしゃることも、また、作成手順が浸透していないことなどであることが分かりました。また、作成に時間がかかる、反響が伝わってこないなどの課題があることも分かりました。

※ Web版は手書きの掲載もできます。また、事務局を通じて連絡していただければ、広報部会員が必要に応じて支援します。さらに、今後も様式の改善に努めます。

- ② 多くの方が閲覧していること。ただ、課題としてまだまだ県民にWeb版の存在が知られていないことが挙げられました。受講生の方も含め、次の手順で是非ご覧ください。受講生の方には、今年度の受講に向け、参考になります。また、周りの方にWeb版を知らせてあげてください。

インターネット検索欄に「とやま学遊ネット」と入力・検索→「学遊ネット」トップページの上方向にある「ポータルサイト内を検索する」に「Web版」と入力・検索

(2) 広報紙「井戸端通信」の効率的な編集・発行について

県民教授と受講生の皆さんのご協力により、今回もこの「井戸端通信Vol.48」を発行することができました。ありがたございました。年度の早い時期に終了する講座も増えたので、原稿依頼などは今後さらに早めていきたいと思っています。各位の一層のご協力をお願いいたします。

(3) 塾生募集要項の配布先開拓について

この「井戸端通信」に同封してある募集要項を少しでも多くの公共施設や事業所に置き、県民の目に留まるようにしたいと思っています。お近くの施設や事業所においていただけそうところがあれば、是非お願いしてみてください。募集要項は事務局に連絡していただければ、お手元に届きます。このようにして仲間を増やしましょう。

俳句を作る 富山を語る

水運の栄えし町や芒原

ヤラヤラと目出度き寺や秋麗

曉美

馬の背や黙して歩く登山道

夏日向花に癒され仰ぐ道

昭夫

露天風呂ひとりで寝待月

登校の子らを見送り木守柿

佳艸

とりどりの火花空にも川面にも

紅葉のアルペンルート二人ゆく

さくら

鮎うまし今年も友の釣果得て

初しぐれ心の澄める高野山

朋子

敬老日孫の電話で今日を知る

「老ひ」を言はないに諭さる小春の日

ふみ子

一雨に秋の深まる白湯かな

仕舞湯を抜けば静かに年新た

よしこ

水撒きや庭に虹発つ昼下がり

水仙の花咲く庭に雪が降る

良裕

平成三十年度の記録

1 開設講座について

(1) 総数 一二三講座

(2) 県民教授 九四名

(3) 受講者数(延べ) 一五九三名

2 交流会の実施について

◎砺波地区交流会◎

(1) 開催日

平成三十年七月二十一日(土)

(2) 開催場所

となみ散居村ミュージアム・交流館

(3) 参加人数 六名

◎高岡地区交流会◎

(1) 開催日

平成三十年十月十一日(金)

(2) 開催場所

コマツ氷見海浜クラブ

(3) 参加人数 十二名

3 広報部会アンケート結果について

県民教授を対象に「井戸端通信

Web版」についてのアンケートを

実施しました。その中に記述してい

ただいた主なものを挙げます。

〈内容の改善〉

(1) 各講座の魅力が伝わるように、

一層の工夫が必要である。

(2) だれに向けての発信なのか、発

信の目的や意図は何か、読んだ後にどのような気持ちを持ってほしいのか、どんな行動をとってほしいのかを意識して作成するようにしたい。

(3) 作成の手順やよい内容、見やすい内容にするコツを教えてもらう講習があるといい。

(4) 紙版とWeb版の違いを意識し、Web版の方は専門的な事柄に踏み込んでよいのではないか。

ページの改善 要望

(1) 慣れていないと検索しづらく、

県民の閲覧がまだまだ少ないよう

である。サイトへの「導線」を工夫

する必要がある。

(2) 自遊塾独自のページをもつこと

を検討してはどうだろうか。

(3) 取材に来てもらえるといい。

Web版の意義

(1) 紙の井戸端通信は限られた人しか読まない。それに対してWeb

版は多くの人の目に触れ、自遊塾

や講座のPRになるので、今後も

是非続けたい。

(2) 情報社会にあつては、Web版

の存在意義は大きいと考える。積

極的に発信した。

(3) Web版は、講座の記録として

の意義もある。また、受講生の活

動、作品の紹介もできるので、活

用していきたい。

編集後記

森川 敬三

昨年、没後二百年を迎えた伊能忠敬が脚光を浴びました。隠居後の仕事「大日本沿海輿地全図」となつて結実した人物です。忠敬が、家督を長男に譲り隠居したのが四十九歳。その後、江戸に出て十九歳年下の幕府天文方高橋至時に弟子入りします。至時の勧めもあつて始めたのが、五十五歳からの全国測量です。その結果は、七十四歳で世を去つた後に「全図」となりました。

忠敬と同じ人は、私たちの身近にたくさんいます。年齢を問わず、人間として自己の能力や個性を実現させていこうとする人です。本紙が、「自己実現」を目指す人の手がかりとなり、次年度も自遊塾に多くの人が集つことを期待します。

平成三十年度自遊塾

県民教授会役員

塾長 澤田 隆彰
副塾長 榊 富雄

広報 部長 森川 敬三
副部長 中川 佳子

交流・研修 部長 榊 富雄
副部長 榊 富雄

出前・庶務 部長 青海 燕燕
副部長 平田 清志

岩田 裕美子
野中 健二